

社会福祉施設におけるその他の起因物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	12～13	利用者ベッド前で、杖歩行の利用者の付き添いをしていたときに、利用者が転倒しそうになったため、体を支えたところ腰を痛めた。	49～299	100
1	16～17	脱衣所にて入浴介助中、ご利用者様を入浴用椅子から車椅子に移乗の際、全介助にて抱えた時左側の腰に激痛を生じた。	48～299	100
1	8～9	2Fホールにて、車イスに座っていた入所者の姿勢を直そうとした所、急に動き出した為、入所者の足が当人左膝正面にぶつかり強打した。	55～99	50～
1	10～11	重度棟女子トイレで、女性ご利用者のトイレ誘導、介助を行っていたところ、だんだん腰に強い痛みを感じ、腰を伸ばそうと畳スペースで横になったところ、一人で起き上がれない状態になり、他職員に手伝って起こしてもらったあと、ゆっくりと歩くことはできた。	38～49	30～
1	4～5	ご入居者が居室にて、ポータブルトイレに向かって立っていた際にバランスを崩して倒れそうになった所を入口にて発見する。慌てて駆け寄りご入居者を後方より抱えたような状態で一緒に倒れ込み、ポータブルトイレの手すりに右肘を強打する。その際の衝撃により、手すりのプラスチック部分も破損する。	54～99	50～
1	14～15	施設内デイルームにて、椅子に座り下向きに屈んで、利用者の手足の爪切りを行っている時、利用者に突然げんこつで一撃され、防ぐ事が出来ず、胸を受傷した。	67	10～29
1	17～18	厨房のコンビオーブンに入居者様の食事を入れようといつも通りに開けた途端、高温で一瞬にしてやけどを負った（不注意によるもの）。	63	1～9

1	11~ 12	前方より両手をつなぎ、認知症高齢者を誘導中、介護士の右腕、指などを強くつかみ捻る等され、右腕と指を負傷した。	41	—
1	10~ 11	施設内の利用者様の居室内において、ベット上でオムツ交換しているとき、交換を終えて左側臥位の状態で肌着等をあげようとしたとき、ぎっくり腰となり負傷した。	32	100 ~ 299
1	0~1	利用者の自宅へ数カ月に亘り介護サービスを行う為に訪問していた。その利用者が結核を患っていたことが判明し、保健所より検査を依頼された。検査の結果、結核が発症しているとの診断を受けた。	67	—
1	16~ 17	院内プレイルームにて、リハビリテーション業務として担当児とトランポリンを跳んでいた。手をつないでトランポリンを跳んでいた際にバランスを崩し、トランポリン上で双方とも転倒し、同時に互いの頭部同士を強打した。	33	10~ 29
1	13~ 14	入居者の居室内にて、車椅子からベッドへ移乗介助をしようとした際に抵抗があり、右手人差し指を強く握られひねられた。無理に離そうとすると入居者が内出血等のケガをしてしまう可能性があった為、手を離してくれるのを待っていた。	40	10~ 29
1	10~ 11	介護老人保健施設食堂にて、利用者へお茶の配膳を行っていたところ、テーブルの足に引っ掛かり転倒し、右膝を床に強打する。	66	500 ~ 999
1	16~ 17	5階の居室トイレにて、ズボンの着脱介助中にバランスを崩し、右膝からボキッと音がし、右膝に痛みが出て力が入らなくなってしまった。	62	30~ 49
1	15~ 16	園庭で外遊びをしている際、走ってきた5歳男児とぶつかった。後ろからだったため体勢を崩し、鉄骨にぶつかり股関節を骨折した。	55	10~ 29
1	19~ 20	夜勤業務中、ホールで利用者を見守りしていたとき、強度行動障害の特性があらわれる利用者が急に不穏になり、右頬を殴られて襟元を掴まれたため、離そうとすると左腕を反対方向に曲げ上げられ、右頬を打撲し、左肩を捻挫した。	33	50~ 99
2	22~23	入所者が興奮し、イスを振り上げ、テーブルを壊し、更にイスを職員へ振り上げ、投げつけようとした為、施設長が、止めようと職員と入所者の間に入った際に、足を滑らせて、転倒し、本棚に頭をぶつけてしまった。知的障害の入所者か	63	10~ 29

		らの攻撃をよけようとして転倒したとのことである。		
2	18~19	老人介護施設にて介護員として就業中に、利用者の食事介助をしていたところ、隣に座っていた別の利用者に左腕を引っ張られ、左手が車椅子に激突してしまった。	54	30~ 49
2	12~13	居室において、利用者を車イスからベッドへ移動する際、ベッドに浅く移動したことにより、利用者がずり落ちそうになり、それを防ぐため自身の右足で落下を防ごうとしたが、支えきれず利用者と共に床に座った際、腰を打ちつけた。	53	10~ 29
2	11~12	排泄介助のため、ベッド横のポータブルトイレへ移乗介助を行ったが、体の小さい方だったが重心を低くせずに行ってしまったために、腰を痛めてしまった。	44	—
2	6~7	キッチン前で作業していて、キッチン内にいた利用者様が怪我をしてはいけないと思ってお声掛けしたところ、利用者様に右の耳から首にかけて数発殴られ顎の下が切れて出血した。通院が休診日だった為、翌日受診し頸椎捻挫と診断された。	48	50~ 99
2	5~6	夜勤中に、3F入居者の男性（約44kg、認知機能に障害がある方）がベッドの上で暴れていたため部屋に入ったところ、入居者が、右大腿部に湿布を貼ることを希望されたため、ズボンを下ろした時、再び暴れ出して被災者の左手首を掴み強い力で引っ張り振り回された。そのため、被災者の左腕に痛みがあり力が入らなくなった。	46	50~ 99
2	8~9	訪問介護サービスの提供のため利用者宅へ伺うと、居室で利用者様が椅子から滑落し床に長座位の状態でご居られた。声掛けをして椅子に座ることを介助しようと、利用者の正面に立ち、向き合って肩を貸そうと前屈みになったところ、腰部にゴキッという音と共に激痛がしてその場に座り込み動けない状態となり負傷した。	48	—
2	10~11	3F談話室にて急変した入居者様の蘇生処置を行った際に膝を床についた状態で作業をしていた為ひざが擦れ、その後、炎症を起こした。	47	10~ 29
2	17~18	利用者様をご自宅に送り、車イスからベッドに移乗させる際、利用者様の頭が胸部に強くぶつかった。痛みが日に日に強くなったため受診したところ、胸部骨ヒビと診断される。	46	10~ 29

2	0~1	特養入所者定期検診にて、入所者が結核陽性判定後、約2ヶ月半、結核性疾病にて入院加療していた。それ以前の職員の定期検診では異常無しであった。入所者の結核罹患を受け、当月に特養職員血液検査が実施され、結核陽性反応が出た為、紹介状を貰い翌月精密検査を受け、その翌日、電話にて結核性疾病を通知され結核専門の病院を紹介により受診し、即日入院となった。	37	50~ 99
2	0~1	特養入所者定期検診にて、入所者が結核陽性判定後、約2ヶ月半、結核性疾病にて入院加療していた。それ以前の職員の定期検診では異常無しであった。入所者の結核罹患を受け、当月に特養職員血液検査が実施され、結核陽性反応が出た。翌月に精密検査を受け、3日間の検査入院の結果、結核菌の陽性反応が出たが排菌が無い為入院はせず、自宅にて投薬開始となる。	52	50~ 99
2	20~21	利用者のトイレ誘導の際、フロアーからトイレへ付き添って歩行していたが利用者に「ふらつき」があったので右腕を持ちながら誘導していた。その際、利用者が手すりを持つとしたが「がくん」と足から崩れ倒れそうになったのを支えようとしたが支えきれず、一緒に床へ倒れ転び足を負傷した。	42	30~ 49
2	15~16	事務所の机で仕事をしていて、椅子から立ち上がった時に背中合わせで座っていた職員も急に立ち上がった為、ぶつかりそうになり、その時に、転倒しそうになり、左足に力を入れて踏んばった際、左足首に鋭い痛みが走り、動くことが出来なくなり、左足に力が入らなく、歩けなくなった。最初に受診した病院で筋膜炎と診断され、湿布と痛み止めを処方され、痛みがある中、仕事をしていましたが、3ヶ月経っても良くならないので、他の病院で受診したところ、アキレス腱断裂と診断され手術することになった。	69	50~ 99
2	8~9	デイサービスの利用者（女性・91歳・38kg）を迎えに行き、廊下で転倒していた利用者を、座位させ、立位をとって頂こうとした時に、腰に痛みを感じた。	27	—
2	10~11	法人施設3階トイレで利用者（女性、78歳、介護度4、体重約50kg）をポータブル便器から職員2人で前後（本人が前）から抱きかかえた時に腰に鈍い音がし激痛がはしった。	40	100 ~ 299
		男性利用者居室で離床介助を行った際、右麻痺の方で、ベッドレールを持って立位をとって頂こうとした時、一度立位をとられたがふらつき右に大きく傾いたた		50~

2	6~7	めとっさに右腕で支えた。その時右肩に強い痛みがはしった。ベッドの高さは立位のとり易いようにあらかじめ上げていた。	46	99
2	11~12	浴室でご利用者様の入浴介助をしていた。この日の入浴されていた方は要介護4~5の方で、2人介助でストレッチャーへの移乗を行い介助をしていた。あるご利用者様を入浴用のストレッチャーへの移乗介助を、上半身側を持って行った。その際、左腰に電気がはしるような強い痛みを感じた。	22	100 ~ 299
2	3~4	利用者の個室で、就寝中のベッド上で体の向きが90度ずれている利用者の向きを直そうとしている時に、利用者の体を尻を軸に動かそうとしたが、利用者の体が不安定で、それを支えようとして腰を痛めた。	25	—
2	12~13	当日、脱衣室で、車イスからベッドへ移乗介助し、ベッド上で利用者の身体を上をスライドさせた時、腰に電気がはしったような感じがした。その後、違和感と腰を屈めた時の痛みはあったが、定時まで就業する。ベッドの高さ53cm、利用者身長155cm、職員身長168cm 翌日、入浴介助後に、自分の足を洗い椅子から立ち上がろうとした時、腰の痛みがひどく、その後は足を引きずりながら歩く状態であった。腰痛のため前屈みになれず、服を着替えるのも難しい状況になり、病院を受診する。	48	50~ 99
2	16~17	部屋の床に臥床されている方を看護師2名で（上半身側と下半身側のうち、本人は下半身側を支えて）車椅子に移乗介助した時、左胸部で音がして鈍痛が出現した。	47	50~ 99
2	6~7	ご利用者様の居室に訪室し、ベッドから車椅子へ移乗する際、右脇腹を痛めたものである。	24	50~ 99
2	15~16	脱走を繰り返す利用者を、ケアホームの玄関で止めようとした時に背中辺りの服を後ろから右手を伸ばして掴んで無理やり止めた時に、凄い衝撃が伝わってきて、ドアにもぶつかって、左側の首・肩・腕に激痛が出た。とても業務が出来る状態ではなく、すぐ病院を受診した。	34	30~ 49
		ケアハウス入居者居室にて、通常は歩行している体重40kg程度の入居者が転倒していた。床から自力で立ち上がるのが不能なため、被災者が両手で抱え上げベッ		

2	17~18	ドに移行してもらおう。その際、左臀部から爪先に掛けて痛みと腰痛が出現した。数日間様子を見ていたが痛みが治まらないため病院を受診し、椎間板ヘルニアとの診断を受け、手術となる。なお業務の影響で約2年ほど前から腰～左臀部～左爪先にかけての痛みが時々あった。	39	30～ 49
2	9~10	利用者様のトイレ介助時に、利用者様の背後で自分の左膝の上に利用者様のお尻を乗せ、ズボンを上げようとしていた時にいきなり全体重が左膝にかかりバランスを保てず左腰を痛めたものである。	22	50～ 99
2	23~24	当保育園の園庭にて、園庭から保育室に戻る際、園児を並ばせながら誘導させていたところ、広げていた左手に園児がぶつかり、親指の付け根を捻って親指が逆方向を向いた。	43	10～ 29
3	13~14	学童保育で勤務中、施設内廊下において、子どもが被災者に抱きつこうと走って向かってきた。受けとめた際にバランスを崩し転倒し、床に頭部を強打し、頭頂部に裂傷を負った。圧迫により止血を行い10分程度で出血は止まり、意識もはっきりしていた。	69	50～ 99
3	11~12	施設内の浴室にて、機械浴での入浴を終えた入所者をシャワーチェアから脱衣場のベッドに移乗する介助を行おうと、入所者の両脇に手を入れて抱えるように立ち上がらせたところ、当該入所者に正面から両手で突き放されるように押され、入所者もろとも後方に転倒した。その際に右側を下にするように倒れ、右肘と右膝を打って痛みを感じ、また腰部にも痛みを感じた。	25	100 ～ 299
3	8~9	施設内1Fフロアで食事後の服薬介助時、入居者に前方から左顔面、左上腕部、左鎖骨部を殴打され、同付近を足蹴りされる。	44	100 ～ 299
3	8~9	施設居室内トイレにて車イスのご利用者様をトイレへ誘導し、車イスから便座へ移乗する際に手首に負担がかかり痛めた。	43	100 ～ 299
3	16~17	当施設内において、利用者のトイレ介助を行おうと車椅子から便座に移動させようと立ち上がらせた際、利用者の立位が安定されなかったため、抱きかかえたまま下へ倒れ込み、尻を床に打ちつけた。	36	100 ～ 299

3	16~17	会社の資材置場にて、丸太の整理のため、直径15cm程度の丸太を転がらないように左手で支えながら、チェーンソーで切断していたところ、切断完了時に丸太を支えていた左腕に重さがかかり、体のバランスを崩し、左前腕がチェーンソーの刃にあたり怪我をした。	34	10~ 29
3	15~16	当社がその運営をしている保育室において当施設所属の当社職員が、保育室でおやつ時間に0才児の子どもを抱っこして、テーブル付きのイスに座らせようとしたところ腰に痛みを感じ、そのまま動けなくなった。そのあと痛みを感じながら保育を続けたが、腰に激痛がはしり、ぎっくり腰を発症した。	30	1000 ~ 9999
3	17~18	食堂にて入居者の食事介助を行ったあと、立ち上がりその場を離れようとした際、右膝内側を入居者が乗っていた車椅子のアームサポート及びハンドリムに打ちつけてしまい被災した。	36	100 ~ 299
3	18~19	居室にて入居者の着替えを行った後、ベッドに移譲させようとしたが、入居者が不穏気味だったため、注意深く対応していたが、突然暴れたため、怪我をさせないように無理な姿勢で支えた際、腰に急激な負担が掛かり、痛みで動けなくなった。	57	30~ 49
3	17~18	利用者居室内で、寝たきりの利用者（要介護4）の排泄介助終了後に体位変換をしたとき、腰部に強い痛みが発生した。オムツ交換をしている時に腰に激痛があり、痛みが止まらなかった。	33	500 ~ 999
3	15~16	トイレにて、利用者を車いすからトイレに移動するときに突然、利用者が膝折れし、咄嗟に支えたので尻もちをつかずに済んだが、その咄嗟の動作で腰に激痛がはしった。	47	100 ~ 299
3	15~16	当施設内での利用者介護中、利用者をベッドから車椅子に移乗させる際、利用者の両足の間本人の右足が挟まれ、そのまま利用者が倒れ、本人は右足膝関節半月板損傷と前十字靭帯断裂を負った。原因は、危険予測が不十分であったこと、利用者の行動把握ができていなかったことにある。	54	100 ~ 299
3	18~19	施設3階のトイレで利用者の排泄介助を行っていた際、一緒に介助していた同僚の介護職員が、利用者の尻のマッサージを行いやすくするため、利用者を抱き抱	25	50~ 99

		え尻を浮かせた際、腰部に痛みを覚えた。		
3	14~15	子ども達とドッチボールをしている時、近距離でボールを投げられボールを取った際バランスを崩し横向きにこけて、左後頭部と左耳下あたりを強打して、頭にごぶができ、歯のかみ合わせの部分がはずれ、銀歯もとれてしまった。脳震盪と診断され、約1週間の自宅安静が必要となった。	50	10~ 29
3	18~19	利用者自室の洗面台で介助中、利用者が転倒しそうになったのを支えようとしたところ、一緒に転倒してしまい、自身の腕が下敷きになり受傷した。	72	1~9
3	10~11	利用者居室にてシーツ交換時、車イスに移ってもらうために起こす際にゆっくりして欲しいとの要望があったため、できるだけゆっくりと介助を行っている時、急に脇腹に強い痛みを感じた。	67	50~ 99
3	11~12	事業所内にて利用者のトイレ介助をしていた時に、利用者がふらつき寄りかかるような体勢になった際、左足で踏ん張ったがしゃがみ込んでしまい、立った時に左膝に痛みを感じた。	52	10~ 29
3	11~12	利用者居室にて、ベッドから車いすへ移乗しようと利用者（身長150cm・体重62kg）にベッドの端に座ってもらい、利用者の両脇に両腕を差し込み、背中に両手を当て利用者の胸に左肩を当て立たせようとした時、左側にバランスを崩したため左足で踏んばり、体の左側に力を込めて支えようとしたところ、腰と首を痛めた。	47	100 ~ 299
3	9~10	介護老人保健施設に勤務する当該職員は、施設内に於いて利用者の居室案内をしていた。利用者が車椅子からベッドに上がり横になる際、足が上手く上がらなかった為、介助する際に中腰になり、右手で足を下から支えて上げたとき、腰を捻り痛めた。	33	50~ 99
3	11~12	サービス付き高齢者向け住宅にて、入居者様を入浴介助のためにストレッチャーに移乗する際、利用者様が激しく動きバランスを崩し、被災者の右腕に負荷がかかり受傷し、右腕が上がらなくなる。尚、この介助は2人介助にて行っていた。	58	50~ 99
3	11~12	当施設入居者様の居室にて、車イスからベッドへの入居者様移乗時にバランスを崩し、腰を痛めてしまった。電動の昇降装置が故障しており、誘導についたリー	34	30~

		ダーと本人で手動にて試みたが、正常に作動せず、そのままの位置で移乗する様に誘導を行った。		49
3	16~17	認知症の施設利用者をお見送りする際、その利用者が急に後ろからおぶさってこられたので、転倒しないように踏ん張ったが、それ以降、背中に強い痛みがはしるようになった。	55	30~ 49
3	10~11	保育園の園庭で、外遊びの時の子どもの見守り時、被災者の後で子どもが遊んでいた時、前から子どもが走って来たので後の子どもを避けようとして（もし被災者が子どもに当たって子どもが怪我をしたらいけないと思い）、横向きに転び腕を骨折した。	68	10~ 29
3	2~3	入居者様よりナースコールの呼び出しがあり、ベッド横に転倒されており、ベッドへ移乗させる際、膝をつき持ちあげようとした時、中腰になり腰をひねった。	65	10~ 29
3	14~15	3階廊下で、利用者を食堂へ案内していたとき、利用者が自分でついていた杖に足を引っ掛け前方へ倒れそうになった。それを支えようとしたとき、利用者が介助者の左手首をつかんだ際、ひねって受傷した。	36	50~ 99
3	13~14	3階建建物の2階フロアにて、職員控室から介護室へ移動するとき、職員控室前に並べてあった他職員の靴に足が引っ掛かり、左肩を下に転倒し強打した。靴は並べてはあったが幅広くなっており、職員が移動する妨げになっていた。	74	50~ 99
3	10~11	施設利用者（障害区分6、重度）を昼食前にトイレに誘導しようとした時、利用者が興奮されて右手の指が労働者の右眼に入り負傷した。普段から興奮が強い利用者で体格も良いため、トイレ誘導や食事介助等の業務は2~3人が対応していた。	29	10~ 29
3	9~10	利用者居室にて、中腰状態でオムツ交換中、利用者の体交を行った際に腰と左足に痛みを感じ、身体を元に戻そうとするも動けない状態となり、そのあと痛みが持続した。	63	30~ 49
3	16~17	食堂兼機能訓練室の畳スペースにいる入所者を二人ペアで車椅子へ移乗させていた時、右腰から音がし、痛みを覚え、作業を中止した。（以前から腰痛があったがヘルニアではない）。帰宅後、痛み止めを飲み安静にしていたが、翌日の勤務	41	100 ~

		中に痛みが増して歩けなくなり、腰椎捻挫、外傷性下肢抹消（性）神経障害性疼痛と診断された。		299
4	11～ 12	利用者様宅でサービス終了後、室内で報告書を記入していた時に猫が膝の上に乗ってきた。終わって立ち上がった際に猫に咬まれ、猫の菌により感染症を発症した。	52	10～ 29
4	10～ 11	施設利用者と散歩に出た際、利用者が地面に寝そべってしまったため、起こそうとして手を4～5回引っ張ったとき、腰に不安を感じた。その後、別の利用者が散歩から帰ってきた際に建物に入りたがらず、外に走って出ようとし、別の職員が引き留めようとしていたので手伝えるため利用者を止めようとしたとき、腰に痛みを感じた。	40	300 ～ 499
4	11～ 12	介護サービス利用者宅の洗面所で、利用者が低血糖をおこし倒れてきたので、利用者の背後に回って支えたときに、背中が反りかえるような状態になり腰を痛めた。	58	30～ 49
4	14～ 15	2階浴室に於いて、男性入居者（大柄で立位不安定）の入浴介助中、入浴を終えた入居者が浴室出口の方へ体の向きを変えようとした際、急にしゃがみ込む様に腰を落とした為、とっさに左手で臀部を支えて体を引き上げようとした際、左肩を痛めた。	55	10～ 29
4	8～9	利用者様宅で体位交換をしようとしたところ、利用者の体を動かそうとしたときに体勢を崩してしまい、腰に激しい痛みを感じ、動けなくなってしまった。	48	30～ 49
4	14～ 15	左肢欠損している利用者の個室でトランス介助をしようとした際、不安定なバランスとなり、自身で足をひねった感覚があった。勤務後から徐々に右膝が痛み始めて、ひねる曲げる等の動きができない状態となり、右膝関節捻挫、右膝外側半月板損傷の疑いありと診断された。	30	50～ 99
4	11～ 12	入居者居室にて車イスからベットへの移乗介助時に、入居者を抱えた際に痛みがあり、ベットへ移乗し臥床させた瞬間に激痛が走った。	34	—
		事業場の担当する1Fフロアトイレにて、入所者の更衣介助中、更衣介助は2名で行っており、被災労働者が入所者を立たせ、（両脇に腕を入れ、持ち上げる）相		

4	10～ 11	勤者が入所者の下衣を降ろしている際に、腰に強い痛みを感じる。 すぐに入所者をトイレに座らせたが、その後も痛みが取れずその日は腰に負担の少ない業務に従事した。 入所者は54kgの男性で、左側に麻痺があり、自立での立位がとれない為に二人介助を行っていた。	44	50～ 99
4	16～ 17	支援中利用者から背中を掻くよう要求がありソファで膝枕で背中を掻いていた。 利用者の手の甲がいきなり顔面・眉間に強くあたった。 その後も支援していたが、首・肩に違和感が出始め、頭痛・肩・首辺りに痛みの症状が出た。	59	100～ 299
4	11～ 12	利用者様宅に於いて訪問入浴作業時利用者様がトイレにおられ自力では入浴部屋へ移動が不可能な為私が抱えるような体勢で移動しようとしたところ私自身の体勢を整えられていないまま無理矢理移動し、腰に痛みを感じた。	24	10～ 29
4	11～ 12	デイサービスにて、水圧ベッドで横になっているご利用者様を起こそうと、先輩社員の指示を受けながら、首と腰の下に手を入れて起こそうとしたがうまくできず、その後何度か挑戦したが起こすことができなかった。 介助中に痛みは感じていたが、後日に肩があがりにくくなった。	22	10～ 29
4	8～9	5階フロアの入居者の居室（個室）にて、職員2名で布団に寝ていた入居者を車椅子に移乗介助を行おうと、まず入居者を長座位に座らせて、男性職員が入居者の前から抱え受傷者が入居者のうしろから、押し上げる動作を行っているとき、受傷者の踏ん張っている左足がちょうど布団の下のマットのヘリの位置にあったため、左足が滑って足首をひねり、左足首を骨折した。	47	100～ 299
4	9～ 10	デイサービスの送迎中に、車から降りた際に一人で足をひねり骨折した。	29	50～ 99
4	5～6	夜勤勤務中入居者様を車イスに移乗させる動作をしている最中に、急激に腰に痛みが発生し、そのあと業務ができなくなった。	51	100～ 299
4	18～ 19	入居者のベッドの上でずれた体をベッド上に上げる補正をしていた時に、前屈姿勢で前かがみの姿勢をとっていたため肋骨を骨折した。	55	50～ 99
		施設居室内でベッドから車イスへの移乗介助中、腰をひねった際にグキッという		100

4	7~8	音と共にするどい痛みを感じ、車イスの前にくずれ落ちた。	76	~ 299
4	17~ 18	利用者居室で離床動作介助中、上半身を起こすため背中に手を添えた状態で、起きる事を拒否されて不意にベッドの方へ倒れる様に力を入れられた時、左腰にギクッと痛みを感じ歩行できなくなった。	52	50~ 99
4	19~ 20	施設内で、利用者様に口腔ケア作業中、指を口の中に入れ口の中の側面をこすっていたら、突然利用者様が首を振り口を閉じたため、右手人差し指を噛まれた。	20	50~ 99
4	10~ 11	小規模多機能型居宅介護事務所の宿泊室において、全介助状態の利用者（要介護5、体重約47kg）を介護ベッドからリクライニング型車イスに移乗介助した際、車イスへの座りが浅いことに気付き、もう一度深く座り直ししようと抱えた時に支えきれず、利用者を抱えた状態で利用者と共にずり落ち、急に腰が痛くなった。	59	10~ 29
4	6~7	ショートステイの利用者居室で、起床介助し、食堂へ移動するため、ベッドから車イスへ移乗中に、利用者は右足にマヒがあるが以前は左足で自分を支えられていたので移動・移乗もしやすかったが、機能低下した為介助者の移動・移乗がしづらく、全介助にて行うようになった状況で利用者を持ち上げて、車イスに移乗する途中に腰からグシャというような音があった。利用者を車イスに座って頂いた後、痛みが強くなった。	62	100 ~ 299
4	10~ 11	入居者様のオムツ交換時、排便があった為、ベッドをジャッキアップ（腰の位置まで）し、陰部臀部洗浄中に突然右側腰に激痛が生じた。そのまま動けなくなったが、オムツ交換を続けようとするも痛みが強く、座り込み動けなくなった。	43	30~ 49
4	0~1	事業所施設内居室で入所者に声を掛けながら定時のオムツ交換作業をしている際に、入所者が突然怒りだし暴れ始めた為、同僚に協力をお願いし、なだめながら作業をしていたが、両足の踵で左胸部分を数回蹴られ負傷した。	56	50~ 99
5	17~ 18	利用者の居室にて、ベッドに横になっている利用者を起き上がらせようとした際に、利用者が手を被災者の首に回し、体重をかけられてしまい被災した。	44	30~ 49
		トナーカートリッジ組立工程で、製品（トナーカートリッジ本体）に小部品を治		

5	11～ 12	具（ハンドプレス）で圧入する作業中に、製品と小部品を治具にセットし、右手で製品を支え、左手でハンドプレスのレバーを引くと、製品の上の面を治具が下方に加圧して小部品が圧入される。その際、誤って治具にセットした製品の上の面を右手で支えてしまった為、左手でレバーを引いた時、治具と製品の間に右手人差し指を挟んだ。	25	50～ 99
5	16～ 17	施設内ホールにて、利用者の見守り支援を行っていた際、急に後方から男性利用者に背中を叩かれる。痛みが残り、頸椎を痛めていたことが分かった。	47	30～ 49
5	19～ 20	施設利用者の居室にて、終身介助の為、利用者を車椅子から床に移乗する際、腰を痛めてしまい、施設移動中に痛みが悪化した。	44	50～ 99
5	15～ 16	施設内において、知的障がい者である入居者を指導中、興奮した入居者の腕が当たり、転倒し負傷した。	45	100 ～ 299
5	12～ 13	入居者様を車椅子からベッドへ移乗する際に負傷した。片麻痺がある体格の大きい入居者様だったので、気を付けながら移乗していたが、無意識に右側に力が入っていたようで負傷してしまった。	36	—
5	15～ 16	デイサービスセンターにおいて、利用者様のトイレ介助をしていた時、利用者様を便座から車椅子に移動させるため、1人で利用者様を抱え上げた際にバランスを崩して、転倒してしまった。その際、頭を強打したらしく、意識を失ってしまった。	52	100 ～ 299
5	14～ 15	事業場入居者居室内ベッドサイドにおいて、ベッドから車椅子へ移乗介護を行うため、入居者を抱えて立ち上がった際に腰がバキッと鳴り、激しい痛みが走った。	44	50～ 99
5	9～ 10	訪問入浴介護サービスにて、お客様を浴槽からベッドへ戻すために抱えた際、腰部に痛みが生じ、痛みが悪化していった。	24	30～ 49
5	15～ 16	2階中間浴側内脱衣室で利用者様を入浴後、整容の為洗面台へ手引き誘導し車椅子に座って頂こうとした時、利用者様がバランスを崩し倒れそうになった為、支えようとしたが、利用者様が上に乗った状態で共に転倒した。	49	100 ～ 299

5	7~8	介護施設にて業務中、ご入居様の起床介助の際に腰を痛めた。施設内居室において、男性で介護度5・体重90kg位で水頭症ありのご入居者様を2人介助で別スタッフが下半身を抱え、当該スタッフが上半身を抱えベッドからリクライニングに移乗中に腰に激痛が走った。	51	10~ 29
5	15~ 16	利用者の居室にて、利用者を車椅子からベッドへ移乗している際、ベッドに寝かせる作業で膝固定をしていたが、上手く自身の膝が外れずに利用者の体重がのしかかってしまい、肋骨の辺りに痛み、違和感を感じた。当日には痛みは強くなかったが、翌日に痛みが増し、骨折となった。	56	100 ~ 299
5	14~ 15	介護施設内の入居者の部屋にて介助中、寝ている状態から体を起こし、ベッドから車椅子へ移動する動作（右側→左側へ）の時、入居者の方の全体重を支えきれず、圧力が腰部にかかり、捻って腰椎を骨折した。	53	50~ 99
5	6~7	居室内で入居者様をベッドから卓椅子へ移動しようと介助をした際、入居者様を抱えた時に膝に痛みを感じた。	38	50~ 99
5	16~ 17	保育中、子供と園庭でおしくらまんじゅうをしていた際にバランスを崩して倒れ込み、地面に右手を強く打った。	69	10~ 29
5	15~ 16	当施設の居室でおむつ交換後、おやつを差し上げる為に離床、車椅子への移乗を行っていた時、左ももの付け根の辺りを痛めた。介助する入居者様は、特に体格の大きい方ではないが、ご自身の脇や足に力が入ってしまい、体を突っ張ってしまう方である。ベッドの端に腰掛けて頂き、脇から手を入れ体を持ち上げた時に、入居者様が体を後方に反り返してしまい、それを支えようとして無理な姿勢になってしまった。その時に、左ももの付け根と膝に痛みを感じたが当日はそのまま、最後まで勤務した。	26	50~ 99
5	7~8	介護施設内の共有スペースの食堂にて、ご利用者様が味噌汁をこぼしかけたため慌てて受けに行ったところ、椅子の脚に躓き転倒した。その際、手を床に着き左手薬指を剥離骨折する。	59	1~9
5	15~ 16	市の移動支援事業で、軽度の知的障害者姉妹とヘルパーと、公園でシーソーをして2対2で遊んでいたところ、バランスを崩して頭から落ち、右膝を打撲し歩行困難になった。	55	10~ 29

5	8~9	利用者宅で、手動車椅子から電動車椅子に移乗するため利用者を抱きかかえた時、突然左ふくらはぎに激痛がはしり、立つことができなくなった。	40	100 ~ 299
5	13~ 14	利用者宅で車椅子からトイレへ移乗する際、利用者の下肢に力が入らず、正座するような体位になる。再度車椅子に移乗する際、利用者を抱き上げ腰に痛みが走る。数ヶ月経っても痛みが治まらず、第3腰椎圧迫骨折となった。	67	10~ 29
5	7~8	4階食堂にて、入居者を椅子にしっかり座らせようと抱えた際、腰に違和感を覚え、次第に立てなくなった（圧迫骨折）。	72	10~ 29
5	17~ 18	利用者様送迎中、運転時に車内後方から児童（利用者様）が飛びかかり、口と鼻を塞ぎ顔を左斜め後ろへ引っ張られる。	41	1~9
5	10~ 11	支援室で利用者の移動誘導中に、急に体を動かし、暴れそうになったため制止しようとしたとき、利用者の頭が自分の頭（前頭部）に当たり、脳震盪を起こし倒れた。意識はあったが、打った部分の痛み、手足の痺れと気分不良があった。	33	30~ 49
5	17~ 18	救護施設に勤務する当該職員は、施設内静養室において、脳出血のため意識の無い利用者を職員2名体制で車椅子からベッドへ移乗していた。その際、利用者の頭部側で支援していた被災者が利用者の両脇を抱えきれず、自身の腕と脚が伸びた状態のまま、腰に負担が掛かり座り込む格好となり負傷した。	40	50~ 99
5	15~ 16	勤務地の渡り廊下にて、片手にズボンを持った状態で、もう片方の手で扉を開けたところ、持っていたズボンが廊下に落ち、そのズボンを片足で踏んだところ滑ってしまい、その拍子に右手を廊下の床面（コンクリート）に着いたため負傷した。	65	100 ~ 299
5	16~ 17	就労場所である施設内にて、通所介助の利用者を介護中、椅子に座っていた利用者をトイレに連れて行くため、利用者の前側から両手を持って立たせた際に、自分の腰に重みが掛かり違和感が残った。その後も介助中に腰を捻ったりすると痛みを感じたが、当日は最後まで仕事をした。安静にしていると痛みは軽減したが、後日にトイレに行ったとき痛みが強くなった。	44	30~ 49
5	10~	施設内ホールにて利用者の車椅子への移乗介助を行っている時に、利用者が予想	30	30~

	11	外の行動をとった為、思った以上に荷重が掛かり、腰を痛めた。		49
5	15~ 16	ホーム内1F特殊浴浴場にて寝台車椅子から特殊浴寝台ベッドへ寝たきりの入居者（女性）を移乗する際、左手首に強い痛みを感じ、その後左手が痛みにより、使えなくなった。	39	50~ 99
5	17~ 18	一階指導室において、日中一次支援利用者の支援中、小学生の女子利用者とゲーム遊びの最中に誤って防御の体勢が取れないまま尻もちをつき、胸椎第11番目、第12番目を圧迫骨折した。	53	100~ 299
5	11~ 12	障害者支援施設利用者が男子棟入口前の柵を乗り越えようとしたため、他の職員と抱えて下ろそうとしていたところ、利用者と共に転んでしまい、利用者が上に乗る形となって足を捻った。痛みがあるが歩ける状態だったので様子を見ていたところ、後日に骨折していることが分かった。	55	30~ 49
5	16~ 17	事業所2階勉強室にて子供達に勉強を教えていた時、他の部屋の子供が入室してきて部屋にあった鉛筆削り器を手に取り持って行こうとした際に、振り向き様に鉛筆削り器を持っていた手を振りかぶるように振り回したため、ちょうど後ろを通りかかった被災者の顔面にぶつかってしまった。	46	1~9
5	10~ 11	浴室洗い場から、浴槽への入り口にかけて片麻痺の男性利用者様（身長150cm台、体重約60kg）をシャワーチェアに座ったままの状態、椅子の左前脚と左後脚を両手で持ち前に引きずり、次に右前脚と右後脚を両手で持ち前に引きずることを交互に行い、浴槽ふちまで30~40cm程移動させ、両足を浴槽ふちに上げた状態にする。そのあと男性に左側にある手すりを左手で掴んでもらい、被災者は右側から男性の腰と太ももに手を掛け、椅子から体を持ち上げる形で浴槽内へ移動させ介助を行った。利用者様が介助経験が浅く緊張があったことと、体重もあったため浴槽チェアからお尻を持ち上げることができず、腰に無理な負担がかかり、強い痛みを感じた。	40	1~9
5	6~7	入居者（女性158cm・100kg）をベッドから車椅子に移乗する際、入居者がベッドから床に立ち、介護職員の肩に両腕を掛け、介護職員は入居者に向きを変えて座らせようとした時に急に腰が痛くなり、座らせた後に痺れが来る。終業時刻まで仕事を続け、帰宅後に仮眠をとり、目を覚ましたら痺れが強くて動けなかった。	53	10~ 29

6	9～ 10	デイサービス玄関前にて、後部荷物台より車椅子を下ろそうと車椅子を持ち上げた時、力がかかり左肩に痛みが出た。	60	500 ～ 999
6	10～ 11	デイサービス施設ホール内にて、利用者様が座っている椅子の向きを変えようと、もう一人の介護職員と二人で椅子を持ち上げ動かした際、左腰部と左足付け根に痛みが発生した。	48	30～ 49
6	14～ 15	当社老人介護施設において、入居者を入浴させる業務を行っていたが、入浴を終えて浴室から出し、着衣を着せようと両手で抱えて椅子に座らせようとした際、後腰に激しい痛みを感じギックリ腰になった。	52	10～ 29
6	16～ 17	当社施設内において、ベッドから車椅子に移乗介助を行っていたところ、利用者が突然、被災者の後頭部の髪を後方に引っ張った為、体勢を崩し、後方に転倒し、臀部を負傷した。	42	10～ 29
6	14～ 15	当社において、本人が入居者様の体位変換（ベッド上）の作業の際、しゃがもうとした時に右膝を痛めた。	34	10～ 29
6	14～ 15	首下麻痺の利用者様がベッドで静養していて、車椅子の方へ移乗しようとして身体をトランスしたところ、腰部に痛みを感じた。	50	30～ 49
6	18～ 19	廊下で他の指導員と会話していたところ、特別支援学級の児童が指導員に向かって勢いよく走って来た為、受け止めたが後方に転倒した。児童の体重がかかった事もあり、瞬間の出来事なので捻ったかぶつけたか定かではないが、左足甲を痛め、勤務中に腫れてきたので翌日に通院したところ、骨折と診断された。	70	10～ 29
6	15～ 16	支援室にて放課後等デイサービスの支援中、玄関から外にとび出した児童を止めようとして、転倒した。	54	10～ 29
6	12～ 13	利用者様のトイレ介助中、立っている利用者様の転倒防止の為、利用者様の右側から腰に左手を回していたところ、勢いよく便器に座られ、便座と利用者様の臀部の間に挟まれ、左手首を上に向けた状態で強打し、下に手首が下がった。	44	10～ 29
		5歳児の保育室で、子ども用の椅子に座り、4人の園児を保育していた。後方から男児がおぶさろうと首に手を回してきたので、そのままの体勢で立ち上がった。		

6	7~8	2、3歩移動したところで、もう一度おぶさっている男児の体勢を整えようと、両膝を曲げてから伸ばそうとし、一歩右足で踏み出そうとしたところ、左脹脛が「ブチッ」という鈍い音とともに痛み出した。その際、左足に体重がかかっていたため、左足首も捻ってしまった。	58	50~ 99
6	9~ 10	派遣先フロアーにて、当日、外出許可が下りていた利用者を利用者の息子が連れ出す際、許可が下りていない他の利用者も連れて行こうとしたため引き止めたところ、口論となり左胸を3、4回叩かれ、左肩を掴み前後に揺さぶられ、左手首を握られた。その後、痛みを感じながらも、その日の業務は定時まで行い帰宅した。翌朝も痛みがあったので病院を受診した結果、左胸左肩打撲、左手首捻挫と診断された。	63	10~ 29
6	17~ 18	保育園の廊下で保育中、廊下を移動しようとして、足元に子どもがしゃがんでいるのに気付くのが遅くなり、かわそうとしてバランスを崩して転倒し、左膝を痛めた。	62	50~ 99
6	21~ 22	利用者宅へ訪問し、退去の際に家屋のシャッターを左手で下ろしたところ、肩に痛みがあった。翌日、痛みがそのままあり、腕も上がらなかったため病院に行った。	66	10~ 29
6	9~ 10	入居者居室にて、トイレ介助作業後、入居者をベッドへ移乗させようとした際、急に腰の痛みで動けなくなった。同室内で勤務していた他のヘルパーに仕事を替わってもらい、病院で受診した。	30	30~ 49
6	13~ 14	勤務中に、児童と走り回り鬼ごっこをしていた時に、急に腰を痛めてしまった。	42	30~ 49
6	14~ 15	診察室にて、椅子に座りながら机で作業中、ベッドの書類を取ろうとして椅子からずり落ち、床に腰を強打した。	79	50~ 99
6	16~ 17	利用者様のトイレ誘導中、トイレの中で介護士2人で介助中、利用者様の手が手すりを握っているのに気が付かず、移動をしようと抱きかかえた時に、強く腰を捻ってしまった。今後は、利用者様の全行動を確認してから行動するように気をつける。	41	50~ 99

6	13～ 14	入居者の居室にて、歯科診療を終えたご入居者を、歯科医師が誤嚥防止体操の指導を行うため、指示により、車椅子からベッドへ移乗介助を行った。入居者の両手を首に、両脇より腕を差し入れ、ベッドに端座させる際、左腰より左臀部に痛みが生じた。時間が経つにつれ痛みは増したが、翌日は休日であったため横になっていた。夜になって歩行困難となり、救急車にて病院へ搬送され、そのまま入院した。	53	10～ 29
6	17～ 18	1階食堂にて、入居者様の口腔ケア介助をしている際に、入居者様が当人の左中指を強く掴み振りほどこうとした時に、強く捻じられ、その反動で洗面台に左中指を打ちつけてしまった。	37	30～ 49
6	22～ 23	認知症専門棟にて夜間勤務をしていた。個室の部屋において、部屋にはベッド、ベッド横にL字型の柵、ポータブルトイレ（夜間のみ）を設置してあった。利用者よりトイレとのナースコールがあった。利用者は掴まり立ち・つたい歩きは可能だが、臥席から座位、座位から立位姿勢をとるには介助が必要であった。臥床していた利用者を端座位姿勢にする為、職員の腕を利用者の背中の方へ回し、支えて上体を起こそうとしたが、バランスを崩し、前屈みになった際、腰に痛みを感じた。	48	50～ 99
6	14～ 15	ご利用者宅で調理（唐揚げ）終了後、油をオイルポットに移す時、フライパンの柄が緩んでいたのか回転し、左手に油がかかってしまい火傷した。	60	50～ 99
6	7～8	3階のSSにおいて、おしぼりの熱湯消毒を洗面器で行った。本来は、軍手とゴム手袋をする予定であったが、急いでいたため、軍手だけでお湯の中に両手を入れたため熱かったため、その場で軍手を外したところ、右手の親指の皮がめくれ、その他の部分は赤く腫れ上がっていた。この業務中、側に誰もいなかった。水で冷やし、看護師を呼んで応急措置をしてもらい、その後、病院の救急へ連れて行った。両手火傷（重症）で、全治3週間となった。	19	50～ 99
6	16～ 17	デイサービスの利用者を社用車（リフト車）から自宅まで送り、小走りでリフト車まで戻る途中で右膝に激しい痛みを感じ、歩けなくなった。	56	10～ 29
		訪問入浴サービス利用者宅マンション入り口で、入浴物品を搬入しようとした際、バケツの中にシャワーホースや洗剤等を入れて両手で持って入り口廊下を移		

6	9～ 10	動しようとした際に、右側に何台もの自転車が止められている状態で、荷物を持っているため足元が見えづらく、自転車のスタンドに引っ掛かり前のめりになって、両手がふさがっていた為に右膝から倒れ、そこへ全体重がかかり負傷した。	59	10～ 29
6	15～ 16	施設内にて、お風呂の誘導を行う際、利用者様に声掛けを行ったところ、利用者さんに突きとばされ、尻もちをついてしまった。立とうとするも足に力が入らず立てなくなった。	27	100 ～ 299
6	11～ 12	障害福祉サービス事業（共同生活援助）の施設で、清掃支援業務のため居室を訪れ、蓋が開いた状態の様式トイレを清掃中、便座を拭いて蓋を倒し、便座の後ろ部分を拭こうとした時、陶器製のタンクの下部が割れていて、右手中指を切創した。	73	1～9
6	12～ 13	老人ホーム内入居者の部屋で、入居者をベッドから車椅子へ移動する時に手首を負傷した。その時、手首の辺りからブチッという音がして激痛がした。	48	100 ～ 299
6	8～9	館内2Fのフロアにて、認知症の入居者様の食事介助中、足を蹴り上げられたところ当人の左膝に当たり、腫れが出た。	57	30～ 49
6	15～ 16	放課後等デイサービスの事業の勤務中に、ある児童が他の児童に足蹴りをしていため、制止した際、児童の肘が右目に入り込むように当たる。その後、右目の見え方に違和感（電灯が消滅するような感じ）が現れ、視力の低下も自覚するようになった。	59	10～ 29
6	12～ 13	利用者宅にて、トイレ介助で車椅子からポータブルトイレに移乗させていた際、バランスを崩してしまった。利用者の転倒を防ごうと無理な体勢をとってしまい、背中に痛みを感じた。数日はそのまま仕事を続けられたが、痛みが治まらず、胸椎圧迫骨折をしていた。	56	10～ 29
6	11～ 12	支援員2人と子供1人の3人で鬼ごっこをしていた。支援員1人は校舎側へ逃げ、被災労働者である支援員は体育館側へ逃げた。鬼であった子供が、被災労働者である支援員を追いかけてきたため、体育館前にあるサッカーゴールとネット（2m×2m）の間をすり抜けて逃げようと思い、ネットに左示指1本を引っ掛けて	59	1～9

		回転し、ネットとサッカーゴールの間をすり抜けたところ、左示指第一関節が切断され、子供が切断された指を拾ったことで切断に気付いた。		
6	16~17	ベッドに寝ていた利用者を車椅子へ移乗しようと、スタッフ2人にて介助時、利用者を抱きかかえて立った時に利用者が手を出し抵抗し、バランスを崩し、そのまま右足を下にして2人で転倒した。もう1人のスタッフはいたが、間に合わなかった。右足に違和感と痛みを感じ、病院にて骨折と診断される。	31	10~29
6	10~11	使用していた平均台を、トラック外に置いていた他の平均台の所に片付けようと持って行き、置いた際に腰を痛めてしまった。	38	50~99
6	7~8	入浴の用意をしようと洗面所に行った時、手を洗っていた利用者が方向を転換した際に転倒しそうになり、咄嗟に本人を支えようと手を差し伸べたところ、逆に手を振り払われ、自分の体勢が崩れ、脇にあった洗面台で左脇を打ってしまった。	49	10~29
7	10~11	特別養護老人ホームにて、入居者様（女性・身長147cm、体重37kg）をベッドに座っている状態から車椅子へ移乗させる際に、横から入居者様の腰部を持ち上げた時に、腰に激痛が起こり、その場で動けなくなった。	52	30~49
7	11~12	利用者居室にて寝ている利用者をベッドに座らせ、車イスに移そうと腰をかかめ、利用者を持ち上げ、方向を変えた際に負荷がかかり、痛めてしまった。	31	30~49
7	13~14	利用者の介助業務で、車椅子からベッドへ移乗させるため、支えで利用者の足と足の上に自分の右足を入れ移乗させた際、右膝に痛みがはしった。 ※初診日まで家にあった湿布薬を貼ったりサポーターをして痛みを我慢していた。	42	50~99
7	10~11	当施設内で入浴介助中に暴れた利用者に喉付近を強く突かれ頸部を負傷した。	49	50~99
7	16~17	放課後児童デイサービス支援中に利用者を連れて、スーパーに買い物に行った。レジでお金を払うために、利用者と繋いでいた手を離したところ、突然左ななめ後方から利用者に押されてしまい、倒れる時に、カウンター角に肋骨をぶつけてしまい骨折とひじを損傷した。	57	30~49
		勤務中、不意に背後から飛びつかれ全治2週間の頸椎捻挫との診断をうける。発		

7	15~16	生時、他児童の指導をしていたために背後から来る児童に気づけなかった。	30	—
7	6~7	保育所の男性更衣室のエアコンのフィルターの掃除をするため机 (120×60×H45) にテーブル (52×52×H34) をのせその上に椅子 (28×30×H30) を置き、その上によって作業している時、エアコンのフィル ターが床に落ちたので拾おうと降りる際にバランスを崩して転び左手を畳の所に ついて左手首を骨折した。	50	50~ 99
7	13~14	訪問介護利用者宅にてサービス時、床に仰臥位の利用者を起こして車イスへ移乗 する際にヘルパーの身長ではかなりの高さに持ち上げなければならず腰に負担が かかり腰部に痛みが出たもの。(その日以降痛みこらえて勤務を続けていたが後 日夕方に痛みが強くなり歩行困難になった)	42	50~ 99
7	10~11	入浴介助のため、利用者を抱きかかえ脱衣所から浴室に移動を試みていたとこ ろ、突然胸部に痛みを感じ、そのためバランスを崩した状態となり、利用者にと もに前方に倒れ込んでしまった。被災者は胸椎圧迫骨折により2~3週間の入院加 療、利用者は腰椎圧迫骨折により自宅療養が必要と診断された。	61	100 ~ 299
7	13~14	事務所出入り口付近で、入浴介助準備のため藁ケース (2段) を抱えてお風呂に 向かおうとしていて、入り口ドアを出て鍵をかけようと後ろ向きになり再び振り 返って前方に歩き出したところ、真下に利用者さんの足が見えたため床に座っ ていることがわかりとっさによけようとした時、バランスを崩し転倒した。その後 も痛みが強かった。災害時は藁ケースを持っていたため前方が死角となってお り、利用者さんの存在に気付くのが遅れてしまった。	46	100 ~ 299
7	13~14	二人介助の利用者様を湯船から介助チェアに移乗する際、左足、第2趾をタイ ルで擦った際に傷ができた。移乗介助時には入浴介助スリッパを脱いで行ってい た。帰宅後、自己にて消毒とカット判で処置を行った。翌朝、腫れと痛みはあっ たが軽い炎症と思い出勤した。途中、頭痛と吐き気のため早退した。夜中に高熱 が出て緊急入院にいたる。	23	50~ 99
7	13~14	作業室内において、利用者の方の創作活動の支援中に、突然利用者が前方より小 走りに近づき、押されたために、後ろにあった机で背中を強打し、倒れたところ	59	10~ 29

		にあった机の脚の部分でも、強打した。		
7	17~18	利用者様宅でオムツ交換のため、車イスからベッドへ移乗する時に利用者様を抱えきれず転倒する。その時に腰を捻り、左腕左膝を打撲。利用者様体重80kg以上を支えることができず、かばうように転倒。ベッド横に車イスを置いていたが、体重が援助者にかかり転倒してしまう。	43	10~ 29
7	9~10	利用者宅寝室でベットから車椅子へ移乗介助をするため、ベット上で起床介助をしようとした際、利用者が全体重をかけて倒れてきた。咄嗟に身体を捻った瞬間首筋に痛みを感じた。	42	30~ 49
7	19~20	3階療養棟にて、入所者の夕食後就寝の介助のため、入所者Aの居室で介助を行った後、居室を出てすぐの廊下において同室者の入所者Bに突然背後から枝で右上腕部をたたかれ、右上腕を負傷する。事故の前後特に入所者Bとの関わりはなく前ぶれもなく受傷する。	34	100 ~ 299
7	10~11	1F施設内トイレにおいて入所者（車イス使用）の方をトイレ介助していた。入所者が急に立ち上がり車イスに戻ろうとしたため、転倒させてはいけないと思い、慌てて、支えた時に十分な体勢ではなかったため、腰を捻った様な感じになり、腰を負傷した。その日は最後まで勤務したが、翌日より動きにくくなった。	57	30~ 49
7	14~15	大浴場にて入所者の機械浴終了後、機械浴用車いすから移動用の寝台へ同僚と二人で抱えて移動した際に腰と左股関節を痛めた。	43	100 ~ 299
7	16~17	特別養護老人ホームの入所者の共用スペース（食堂）で、食卓テーブルの前の椅子に座って入所者のおやつ介助をしている時に、他の入所者がお茶を床にこぼしたため、それを拭こうとして椅子から立ち上がった。その際に、自分の足がもつれて床に転倒し、右肩を負傷した。	59	100 ~ 299
7	11~12	当施設の2Fトイレ内でトイレ介助中、利用者の紙パンツやズボンをはかせていた当事者職員の腕をつまんだり、捻ったりしていた。大腿部あたりまではかせた時に、しゃがんでのはかせていた当事者職員の顔面に利用者の右手握り拳がパンチするような形であたり、口腔内に極微量の出血があり、強く握られた手にも痛みがある。	51	50~ 99

7	9～ 10	利用者居室内にて、オムツ交換時客室のベッド上で横になっている利用者の右側面に立ち、麻痺のある左半身を持ち上げた際に、無理な姿勢で持ち上げてしまい、腰を痛めてしまった。	20	50～ 99
7	12～ 13	2階入居者居室内で、入居者をベッドから車椅子へ移動するための作業を2人組で する際、前かがみになったときに背中と腰に痛みが走り、通常の動きができなくなった。	33	50～ 99
7	7～8	2階フロアの自席で、入居者の口腔ケアの介助中に、拒否が強い方のため2人で 介助をしていたとき、右手をつかまれ親指を強くひねられた。	59	50～ 99
7	9～ 10	利用者の家を出発した直後、送迎車内で利用者の1人が走行中にシートベルトを 外し、ドアのキーを解除して外に出ようとしたため制止してたところ、利用者が 数回頭突きをし、顔面に頭頂部を強く打ちつけてきた。そのため、利用者の頭が 顔面（特に鼻の部分）に直撃し、鼻骨2ヶ所を骨折した。	50	1～9
7	17～ 18	保育所で0、1歳児クラスを担当する被災者は、被災当日の夕方クラスにて保育を していた。入口のドア前で、膝立ち状態で周りにはいる幼児と遊んでいたときに、 室内の端から保育者（被災者）に向かって走ってきた幼児に対応しきれず、左足 の辺りに不意にとび込んできた幼児の身体が当たり、左足太ももに挫傷を負っ た。	23	30～ 49
7	16～ 17	デイサービス静養室にて、2人介助にて入居者の排泄介助を行っていた。車椅子 からベッドへ移乗する際に、1人が後ろで支えて、本人が前で抱き上げたとき に、腰を強く捻ってしまった。	67	30～ 49
7	15～ 16	道路上で徘徊し、認知症のせん妄状態が出現している利用者を発見した。家族へ 連絡し、タクシーに乗せようとした際に利用者が抵抗し、利用者の身体が地面に 落ちそうになったため、利用者の身体を支えようとしたときに、腰椎を圧迫骨折 した。	61	30～ 49
7	10～ 11	当法人保育園の保育室において、座っていた園児を抱えて立ち上がり歩き出そう としたところ、足元の園児に気付かず、驚いたためバランスを崩し、尻もちをつ いた。その際、左手をついてしまい負傷した。	41	50～ 99

7	10～ 11	施設の利用者居室内にて、リクライニング車椅子からベッドにスタッフ2名体制で移乗介助をしていた際、足元での介助を行っていたときに、腰を痛めてしまった。	51	30～ 49
7	19～ 20	利用者居室でオムツ交換後、ベッドの足元側に全身が下がっていたため、体を上の方に移動しようと思い、両腕を利用者の背中側と下半身に差し入れ、ベッド頭上に移動したところ、体格が良い利用者であるため左足に加重がかかってしまい、左足ふくらはぎ裏側からブチっという異音が生じ、床にしゃがみ込んでしまい、しばらく痛みのため動くことができなくなった。	60	50～ 99
7	15～ 16	入居者居室にて、排泄介助（パット交換）のため車椅子からベッドに移動する際に、対象利用者は下肢に力が入らず、全体重を掛けられ、支えていた右手首に負担が掛かった。様子を見ていたが、腫れてきて押すと痛みがあり、時間の経過とともに痛みが強くなった。	63	100 ～ 299
7	16～ 17	障害者施設のグループホームに帰宅したが、鍵がかかっていたため、やむなく外で待機することとなった。部屋に入れずに状態の利用者（障害者）が興奮状態となり暴れだし、それをなだめようとしたときに、利用者に蹴り飛ばされ、左足甲と指を負傷した。	60	100 ～ 299
7	11～ 12	社内の水遊び場で、子どもが水遊びをしており、終了時に、なかなか水遊びを終了できずにいた児童に指導員が声をかけ、手を差し出したところ、いきなり児童が指導員の手を引っ張り、指導員は違和感を感じた。	43	1～9
7	18～ 19	入居者Aのトイレ介助のため共用トレイにいたときに、シルバーカーの動く音が聞こえたため確認に行くと、入居者Bがシルバーカーで洗面場へ行き、立ち上がってふらつきながら動き始めていた。入居者Bへ近寄り、介助しようとしたときに、入居者Bが倒れて来て、支えきれずに一緒に倒れ、左肘を床に強打した。 (入居者Bの体重は54kg、共用トイレから洗面場までは約2m)	36	100 ～ 299
7	19～ 20	当社グループホーム内にて、利用者（身長155cm、体重45kg、介護度4、女性）の入床介助中、車椅子からベッドへ移すため、利用者を一人で抱え上げたとき、利用者が怖がって、突然車椅子を掴んだため、バランスが崩れてしまい、体勢を保とうと右足を踏み出し床面についたとき、全重量が踵にかかってしまい、右足を	41	10～ 29

		負傷した。		
7	16～ 17	事務所内のトイレにおいて、利用者のトイレ介助作業中、利用者のズボンを上げるため、中腰の体勢から体を起こそうとした際に、腰部に激痛がはしり負傷した。	24	100～ 299
7	15～ 16	施設内浴室にて入浴介助の際、認知症（BPSD症状）の入居者が暴れ、左手を強打した。	57	10～ 29
7	10～ 11	利用者宅2件目のサービスを終え、3件目の利用者宅へ行く途中、信号が青に変わって渡りだしてすぐに、反対側から渡って来た人が右側に突っ込んで来て、そのまま左側に避けようとして転んだ。	54	1000～ 9999
7	10～ 11	子どもを抱っこしながら立ち上がろうとしたとき、子どもが暴れたため、体勢を崩しながら立ち上がり、膝を痛めた。	38	50～ 99
7	11～ 12	介護老人福祉施設本館4階にて遅出業務に入り、入所者の入浴が終わり、ラウンジにて、介護職員と2人でストレッチャーからリクライニングに移乗介助したときに腰を痛めた。	50	100～ 299
7	13～ 14	3F老人保健施設の居室にて、定時の排泄介助の際、認知症のため理解が困難な方にいきなり左手を強く握られ、手をひねり回され、その後、痛みが持続した。	50	100～ 299
7	16～ 17	駐車場において、全介助者を車椅子から送迎車の中へ移動する際、一人介助にて行っていたところ、右足太股に利用者の身がのりかかる状態となり、転落しそうになり、不安定な姿勢のまま無理に座席へと乗車させた。その際、過度に足の付け根を捻る形になり、グギッと音がして痛みがはしった。	58	10～ 29
7	19～ 20	居室にて転倒している療養者を一旦車椅子に乗せるため、1人介助で起こそうとしたとき、右足を捻り、自身の体重が右足にかかり、右第5中足骨を骨折した。	33	100～ 299
7	14～ 15	鬼ごっこの要素を含む遊びの研修を行っていた際、鬼から逃げるために急激に方向転換をしたとき、足を滑らせて転んだ。そのとき咄嗟に左手をついたため、手首を骨折した。	53	1～9

9	13～ 14	当法人の保育室内に於いて、空いた布団を片付けて園児達の就寝（昼寝）スペースに戻る途中、園児の1人が突然、体勢を変えて布団から足を出してきた為、咄嗟にそれを避けようとして身体のバランスを崩し転倒。その際、右手のみで身体を支える形になり、床に手をついた瞬間、右肩を脱臼した。	41	30～ 49
9	7～8	利用者宅寝室において、利用者（身長168cm、体重58.3kg、左足が不自由で自分では歩けない）をベッドから車イスに移動介助中、利用者も介助に不慣れだった為、無理な姿勢になってしまい腰に痛みが走った。	69	10～ 29
9	6～7	ご入居者の居室内で、布団（床）からの立ち上がりの介助の時に、口頭での指示が伝わらない方で、体がつっぱり、全体重を支える形で介助したために、腰部に激しい痛みがでたが、介助を続けた。	49	30～ 49
9	22～ 23	夜に他のご利用者様の居室に入ることがあり、注意をしたところ、興奮状態になり、職員の髪をつかみ、拳で左顎を殴られる。3階にいる職員に助けを求める為、内線にて電話中に背後より首を絞められ倒れた際に馬乗りになり、殴られている最中に3階にいた職員が駆けつけ、静止した。	51	30～ 49
9	16～ 17	デイサービスセンターフロア内の利用者用トイレで、利用者を洋式トイレから車イスへ移動する介助をしている時に、一人ではまったく立位のとれない利用者が本人の首に両腕をまわして本人は利用者の腰に手を回して持ち上げながら数歩移動し、車イスへおろした。その直後、腰から大腿にかけ痛みが出て痛みが強くなり、ゆっくりとしか歩けなくなったものである。	67	100 ～ 299
9	21～ 22	利用者に話しかけていたところ、別の利用者に後ろから首～肩のあたりをつかまれ、おどろいて急に振り向いた時に首を捻って痛める。	63	50～ 99
9	17～ 18	施設に来所する前から自閉症の成人利用者の状態が悪く、頓服薬を服用して様子を見ていた際、パニックを起こし、左手の甲にかみついてしまった。	47	10～ 29
9	20～ 21	有料老人ホーム施設の事業所内にある、利用者居室の定期巡回業務をしていたところ、居室内において、車椅子乗車のまま車椅子ごと転倒している利用者を発見した。当該社員はとっさに車椅子を起こそうとして一人で車椅子を持ちあげるべく床面から車輪部を持って押し上げたが、その際に不安定で無理な姿勢をとってしまったため、腰椎圧迫骨折と診断された。	65	1～9

9	14～ 15	施設内2階、ご入居者居室のトイレ内で、ご入居者がトイレ壁設置の介助バーをつかんで、車椅子から立ち上がろうとしたところをその背後から右手でズボン、左手でご入居者の左臀部を支え上げたところ、左腰の辺りに激痛が走った。ぎっくり腰のような痛みで、日に日に痛む範囲が広がっている。	38	100 ～ 299
9	6～7	施設内にて、ご利用者を床の上から車椅子へ移乗介助する際、ボキッと音がして痛みを感じる。移乗状況は、床の上からご利用者の身体を車椅子に持ち上げる動作を行う。	67	10～ 29
9	15～ 16	利用者宅にて、ベッドでオムツ交換を行った際、体位交換時にバランスを崩し、左手の親指、人差し指、中指を負傷した。	62	10～ 29
9	12～ 13	利用者と一緒に食事を取り、食器を片付けようと右手に皿を持ち立ち上がった時、右に利用者が居て、足を出しているのに気付き、バランスを崩して、左側に体が傾き食器棚に左半身を激しくぶつけ、左手を打ち床に跪いた。左肩、鎖骨、腕に痛みを感じたので湿布を貼り、夕方迄業務を続けた。	62	100 ～ 299
9	11～ 12	3階ユニットトイレで、トイレ介助のため、入居者の正面から中腰で両脇に手を入れて抱きかかえている時に、入居者が足に力が入らず、ほぼ全体重（45kg）を被災者が支えていたため、腰に痛みがはしり負傷した。負傷日当日は耐えられる痛みだったためがまんして仕事をしたが、家に帰ってから痛みが増して動けなくなり、翌日は仕事を休み自宅療養し、病院を受診した。	38	50～ 99
9	0～1	当施設内、ご利用者様の部屋にて、おむつ交換のため、体位交換（身体を仰向けから横向きに交換）をしようと、ベッドに左ひざをつき、右足は床についた体勢で、横向きに寝ているご利用者様の背中を押し出した瞬間、右腰に痛みが走った。当日は応急処置で湿布をして勤務をした自宅に帰り就寝し、朝起き上がろうとしたが身動きが取れなくなった。	46	10～ 29
9	13～ 14	ショートステイ利用者をトイレ介助中、立位不安定であったため、利用者の臀部に介助者がひざを当てて、中腰状態になっている際、腰に痛みが発生する。	36	300 ～ 499
	11～	作業済みの荷物を車両へ積み込む作業を行っていた際、腰部に強い痛みを感じ歩		30～

9	12	行困難な状態に、夏頃から腰部に痛み、足の痺れなど違和感があり、病院への通院を行っていたが、症状が進み入院となる。	51	49
9	10～ 11	利用者宅において、ベットで臥床している寝たきりの利用者の訪問看護のケア中にあやまって、ベット柵に左肋骨を強打した。	44	1～9
9	11～ 12	介護現場（フロア・共同トイレ）で、入居者が排泄を終えられ便座より車イスに移乗してもらおうと、入居者（自分で立てない）を立たせる為に対面になって支えようとした際、腰に負担がかかり動けなくなってしまった。（入居者は認知があり自身で立てず体重も労働者にかかりやすい）	36	100 ～ 299
9	15～ 16	当園保育室内において、1歳児のおむつ替えを終え子供を誘導している時、午睡用に敷いている布団に足をとられて滑り、転倒した際ついた右手を負傷した。	48	10～ 29
9	18～ 19	夕食介助時、車椅子の利用者に、姿勢を正してほしいと頼まれ、腰の部分から持ち上げた際、右上腕部に痛みと違和感が発生した。	38	50～ 99
9	20～ 21	夜間勤務中に、居室にて入居者様を車イスからベッドへ移乗介助を行っていた、片マヒである男性入居者様を車イスから抱え上げようと力を入れた際に痛みが走ったとの事、被災者は服薬の影響で骨が強くない事や男性入居者様も片マヒであり体格も大きく身体を持ち上げるのに大きな力が必要な事もあり、今回のケガに繋がった。	61	10～ 29
9	11～ 12	トイレにて、職員が2人介助にて入所者の排泄介助を行った際、職員が入所者の両脇の下に手を入れ抱え上げたところ、腰部に激しい痛みを感じうずくまってしまふ、1人で動くことが困難なため、車イス使用し整形外科を受診する。	31	100 ～ 299
9	14～ 15	施設内脱衣所にて利用者入浴のため、利用者を脱着衣介助しようとして抱えているときに当該利用者に左前腕を咬まれ受傷した、その後、左手掌及び指先に強い痺れと受傷部分の痛みが増強したため、病院受診となった。	54	100 ～ 299
9	10～ 11	デスクにて記録を書いていた所、急に右側よりインスタントコーヒーの空き瓶を持った利用者様より右側頭部を殴られる。	60	10～ 29
9	6～7	入居者の居室のセンサーが鳴ったため、入室しセンサーを切ろうとしたところ、入居者がベッド柵を外して振り回し、首を強打された、振り返ったところ、再度	43	50～ 99

		ベッド柵で右手を強打された。入居者には認知症の症状があった。		
10	8～9	当施設更衣室にて作業服に着替え作業室に走っていった時、靴の踵をつぶして履いていた為、デフロアーで右足を滑らし、前に転倒、両腕を負傷した。	57	50～ 99
10	12～ 13	居室にて利用者をベッドから車イスへ移乗する際、バランスを崩し右足を捻った。応急処置として患部に薬を塗り、湿布を塗布し帰宅する。第5趾中足骨骨折となった。	21	30～ 49
10	10～ 11	老人ホームにてご利用者様への機能訓練業務を行っていた。リハビリ訓練台へ寝かせる際に体勢を崩しかけたご利用者様を支えたところ、左殿部から左大腿部にかけて痛みが発生した。	46	50～ 99
10	14～ 15	ホームの入所者が車いすごと倒れていたため、足に力を入れ踏ん張り、車いすを起こそうとしたときに、右膝、腰を捻挫した。	72	1～9
10	10～ 11	ご利用者様をベッドから車イスへ移乗介助した際、左足に激痛を感じたため受診した結果、肉離れとなる。	44	50～ 99
10	9～ 10	ご利用者様の居室内トイレにて排泄介助中、ご利用者様の排泄後、L字型手すりのポールを握って立って頂いた。右手で腰を支え、左手で臀部を清拭タオルで拭いた際、突然腰に強い痛みが生じた。トイレ内には車椅子も便座に横付けしており、動きは制限される。	37	10～ 29
10	9～ 10	利用者宅で、ポータブルトイレ横の椅子に手をつき半分しゃがみこんだ姿勢の利用者を後ろからかかえ立たせようとしたところ、背骨がポキッという音がして腰に痛みを感じた。	73	50～ 99
10	18～ 19	利用者様居室にて、利用者様の移乗介助中に右手首を痛めた。その夜から湿布にて対応するが、次の日も痛みが残った。	25	50～ 99
10	11～ 12	入居者様の部屋にて移乗等介護をしていたが、初め入居者様の病名が違うものであり、発赤は他人に移らないと聞いた為、他の入居者様と同じ対応をしていたが、後日疥癬の診断がくだされた際、自分にも発赤が出来ていた為、病院受診し、卵のからが見つかり疥癬であると診断された。	42	50～ 99
10	7～8	利用者の朝食の時間になったので、朝の着替えの介助をしていたところ、利用者に抵	29	30～

		抗されて、その時利用者の肘が左手小指にぶつかった。		49
10	10～ 11	入浴介助中、入居者の立位介助を行った際、腰部と左下肢を痛める。	50	30～ 49
10	15～ 16	体重のある利用者を車いすからベッドへ移乗介助する際に足を捻り、歩行が困難な程の痛みがあった。	53	50～ 99
10	15～ 16	当社が運営する有料老人ホームの車椅子用トイレにて入居者のトイレ介助中に発生。手すりにつかまって立ってもらった体勢時に突然、入居者の膝折れが生じ、当該労働者の首と肩に全体重が押しかけた。その際、首と肩を痛めた。深夜になってから痛みがひどくなった。	23	30～ 49
10	16～ 17	利用者自宅に於いて利用者を車椅子からベッドへと移乗させた。端座位になり、頭をヘルパーの腕で支え、体幹を安定させて上着を脱いでもらおうと肩に手をおいた時、突然後方にそっくり返った。咄嗟に怪我をさせてはいけないと利用者を受け止め様と思ったがバランスを崩しベッドの横にあったサイドテーブルに右手をついた。ねじるようにつき、骨折した。	76	100～ 299
10	12～ 13	特別養護老人ホーム4階のサロンで昼食の食事介助後、女性入居者の方をトイレ誘導しようと車イスに移乗させたが、いやがり、あばれた。その際、床に落ちそうになったのでそれを支えようとした時、腰椎に激しい痛みが走り動けなくなった。	41	30～ 49
10	15～ 16	利用者様宅玄関前の階段で、車イスに乗った利用者様を2人で運ぶために上っていたとき（下部を支えていた）不安定な状態で腰に負担がかかり第4腰椎を圧迫骨折した。	60	10～ 29
10	18～ 19	介護業務中、入居者様の居室から廊下に出た直後、不穏な状態になっていた認知症の別の入居者様から左胸部を背後から一回殴打され、打撲した。	49	10～ 29
10	16～ 17	療育を行う指導訓練室において、支援（遊びを通じた療育）利用児に髪を多量に引っ張られ、左腕を強打（床に）し、骨折する。5分程度立つことができなかった。床はタイルカーペット、窓は閉めていた。複雑な転倒のしかただったので、左腕をどのように強打したかは本人は自覚がない。強打の後直ぐに左腕に激痛が	50	1～9

		あった。		
10	20～ 21	ホーム内にて利用者さんのオムツの交換をする時、上体を少し上げようと引き上げた時、利用者さんがベットの柵を持ち踏ん張られたため、その際に腰を痛めた。	24	100 ～ 299
10	8～9	当施設において利用者の居室でオムツ交換のため車椅子からベッドへの移乗時に、被災者は利用者の脇に両腕を差し込み、抱えて移乗させようとした。その際、突然利用者が車椅子を左手で掴んだためバランスを崩し、利用者を落としそうになったため右足に力がかかり右膝を負傷した。	41	30～ 49
10	9～ 10	1才児の保育室の右側付近で、1才児12人に3人の職員でおやつを食べさせていた。おやつ終了後に担当する1才の園児が機嫌が悪くなり激しく泣くため落ちつかせようと抱き上げた。3～4分程抱いたまま、室内を歩き回ると落ちついて泣きやんだため保育室の左側の畳の上に中腰の状態でおろそうとしたところ、腰の骨がずれたような感覚があり痛みが出た。	25	10～ 29
11	6～7	福祉施設における業務中に施設内で流行していたウイルスに感染したものである。	64	30～ 49
11	5～6	福祉施設における業務中に施設内で流行していたウイルスに感染したものである。	33	30～ 49
11	23～ 24	福祉施設における業務中に施設内で流行していたウイルスに感染したものである。	19	30～ 49
11	15～ 16	特別養護老人ホームで発生した。入居者N様をトイレ後手つなぎ歩行で移動しようとした際、N様がバランスを崩し、その場に尻餅をついた。被災職員がN様をかばおうと左側から倒れ、床に腰を打った。	60	100 ～ 299
11	15～ 16	当社、廃棄物等選別場にて廃棄物運搬車のコンテナから廃材を降ろす作業中、コンテナの扉を開けた時に廃材が荷崩れを起こし、その中の角材が落下し左の足首付近に当たり負傷してしまった。	45	50～ 99
11	16～	荷降ろし作業中、トラックの前で待機していた際、フォークリフトがトラックの前で一旦停止したが、傾斜地でサイドブレーキが引いていなかった為、動いてし	36	300 ～

	17	まい、フォークリフトの爪の先端とトラックのタイヤに挟まれ、左下腿部を負傷した。		499
11	11～ 12	外注先で、4tトラックの荷台で荷卸し中に、荷締めフックから手が外れて荷台から床に尻より落下した。更に機械工場のピットの中に落ち、機械に右側の頭を当て、頭の右先端を裂傷（3cm）し、5針縫う。又、手の指先（両手）に痺れがある。話は正常に出来る。	37	100 ～ 299
11	9～ 10	豚肉の加工場内での作業中、豚肉を押して整えようとして手を下に伸ばした時に右肩甲骨の下の方に鋭い痛みがあった。その後もかばいながら仕事をしていたが、その後、腕が上がらなくなった。	65	10～ 29
11	19～ 20	特別養護老人ホーム施設内で利用者を車椅子からベッドへと移乗しようとした際に、利用者の男性の体重が重くしかも片麻痺による傾きと拘縮が強く更に排便した状態であったため不安定な姿勢での移乗をせざるを得ず、移乗を行った時に激しく腰を痛めた。なんとか身動きがとれたため職務を続け夜勤を終えた後に受診した。	32	100 ～ 299
11	13～ 14	胃ろうの方をリビングからお部屋に移乗し、車椅子からベッドへ移乗の際にフットレスが開かず、足先が引っ掛かり、一度抱えてベッドにのせる時に腰を捻り、「ギクッ」と音がした。その夜から鈍痛があり、その後歩き出せなくなる。（身長160cm、60kgの女性の対応）	52	50～ 99
11	14～ 15	放課後等デイサービスで子どもの相手をしている時に、フロアにおいて、泣き出して外に出ようとドアから離れない子ども（靴を脱いで中に入れれない子ども）を、ドアの通行が出来るよう、又、子どもが場所を移動して落ち着けるよう、子どもを抱き上げ、移動した。その際、姿勢を崩してしまい、腰に大きな負担がかかり、歩行も困難なほどの持続的腰痛が発生するに至った。	50	1～9
11	9～ 10	入居者様居室にて、ベッドから車椅子へ移乗する際に入居者様の膝が曲がり、腰部を痛めてしまった。支える為、自分の膝をのばした。ご入居者様は左腕が欠損しており、左足麻痺である。	22	30～ 49
11	16～	訪問入浴介助サービスにおいて、入浴後の浴槽からベッドへ利用者の移乗介護を行う際に左肩に違和感を覚え、その後、翌朝になり、痛みを感じ、左腕を上げる	28	10～

	17	ことが出来なくなったので医療機関に受診する。		29
11	4~5	当社介護付有料老人ホーム施設内居室にて利用者のオムツ交換の時、ベッド上で交換をしている時入居者が急に足を閉じようとしたため相手の膝が職員の胸に当たってしまい負傷したものである。（入居者は認知症身長140cm、体重37.1kgの方）	81	50~ 99
11	11~ 12	居室トイレにて、入居者の排泄介助のためトイレ便座と車椅子との移乗介助中、トイレ内で狭いため、入居者が立位保持出来ずよろけ崩れ落ちそうになったのを左手で支えたところ、体重が左手のみにかかり左肩に激痛がはした。	49	30~ 49
11	16~ 17	入浴時の脱衣介助時、入居者様に左腕を引っ張られ、肩を痛めた。翌日、就寝準備の為の更衣中、再度、左腕を引っ張られ、肩から背部を痛めた。その後、介助中、左肩をかばう為、背中腰の痛みが出現した。	27	10~ 29
11	15~ 16	特浴室で利用者の入浴前後の着脱と移乗、60kg程の男性利用者をストレッチャーから車椅子へ移乗した際、両手を利用者の脇の下に入れ、ストレッチャーと車椅子の間に立ち、足を大きく広げていた時に腰を捻った。	24	50~ 99
11	10~ 11	病棟内で、保護室内入院患者を入浴後保護室に戻ってもらう際、当該患者が暴れた。制止した際にその患者が被災者の右足背に尻もちをついて倒れた。誘導はナース2名で対応していた。右足背には患者の坐骨がぶつかった。（当院は、精神科の病院である。）	41	300 ~ 499
11	13~ 14	厨房のシンクで、熱湯をポットに注ぎ、ポットの蓋を閉めるために少し持ち上げてずらそうとした際、ポットが引っくり返り熱湯が自分にかかった。	32	100 ~ 299
11	8~9	入居者居室内にて、63歳男性（身長165cm、体重45.1kg）をベッドより起きて頂こうと入居者の肩下に手を入れ力を入れ、上体を起こそうとした際腰がギクッとなった。その後は仕事を続けるも左足に激痛があり歩くことも辛くなる。	61	100 ~ 299
11	10~ 11	ご利用者（女性）が水分補給をする為、車椅子への移乗介助を行った際に腰に痛みが出た。当日はそのまま勤務を行い、翌日は自宅療養していたが、痛みがひどく、後日病院を受診した。	51	100 ~ 299

11	0～1	キッチンで食洗機内の食器を棚に片付けている時、背後から利用者に声を掛けられ立ち上がった時、膝を負傷した。	57	50～ 99
11	15～ 16	転倒した入居者を車椅子に移乗後、部屋のベッドに座っていただくために前から抱え、入居者が前屈みの腰を折った状態で立たせ、入居者には、両腕を持ってもらい、入居者の頭部が、労働者の胸に当たっている状態で、看護部と共に入居者をベッドに移乗した。その際、入居者の頭部が労働者の胸に当たった状態で負荷と回転がかかった。	42	30～ 49
11	16～ 17	施設のお風呂へ小5女兒を入れようとしていた時、小6女兒が現れ自分が先に入りたいからと無理やり脱衣場から出されそうになった。話をするが聞き入れず、髪を引っ張る等の暴力をされ、首がむち打ちのようになり痛めた。	23	10～ 29
11	9～ 10	訪問先で作業をしている間に腰が痛み受診後腰椎圧迫骨折と診断される。訪問先利用者は立位がとれない寝たきり状態で排泄、更衣、シーツ交換を行う作業。	70	50～ 99
11	2～3	老人ホームの夜勤巡回中、車椅子常用の入居者が、ベッドからずり落ち、ベッドを背にした状態で床に座り込んでおり興奮状態だったため、急いで床からベッドの上まで移乗させようと試みた際、腰に痛みと違和感を感じた。このまま1人での移乗は難しいと思い2階職員へ応援要請を行い、2階の職員が入居者を抱きかかえる介助を行うと同時に受傷者が車椅子を差し込む介助を行い、この時は腰への負担はなかった。入居者は日勤帯は2人で介助対応する体格の良い人で、夜勤1人勤務の際は他階職員の応援要請をすべきところ、急いで対応しようと1人で試みたので腰への受傷となった。	53	50～ 99
11	8～9	園内において、レントゲン撮影のために部屋を出て、ドアの鍵を閉めようと後ろ向きになったところ、園生にいきなり背中を2回突き飛ばされ、負傷した。	46	30～ 49
11	11～ 12	1病棟食堂で昼食準備中に、利用者が興奮状態で食堂に入室し、他の利用者を叩き寝そべる等興奮が続いた。タイムアウトをする為に、職員3名で1病棟本館個室へ入室させた。先に職員2名が退室し、続いて被災職員も退出しようとしたが、利用者が外に出ようとしたため、再度個室へ入った。その際、利用者が被災職員のサロン（エプロン）を両手で掴んだため、その反動で足が取られ前のめりになり、利用者に覆い被さる形で前方に倒れ、壁に頭を打った。	41	100 ～ 299

11	8~9	利用者様が起きて来られず、様子見に訪室すると「車椅子に乗せて下さい」と言われた為、排泄処理後、同僚介護職員を呼び二人介助にて車椅子移乗を行う。移乗前、車椅子が患側側に置かれていたので、健側側に移動していいか本人に伺ってみるが、普段より自立移乗で馴染んでおり、「そこでいいです」と強い口調で主張された為、その位置での移乗となる。利用者様を抱き上げた際、健側側の手で柵を強く握り、声かけしても放そうとされず引き合いになった際に首をひねり、当日は帰宅しても何の痛みもなかったが、翌日、首から肩にかけ痛みがあり、翌々日には痛みが強くなり、病院を受診した。	58	10~ 29
12	17~18	事業場と同一建物1階に所在する有料老人ホームで、ベッドで横たわる入居者の体位交換を行う際、入居者の体を両手で抱え上げようとしたところ、右肩に激痛が出現し、その後も痛みが持続した。	57	10~ 29
12	12~13	当社施設内に於いて、疥癬に感染しているとわからずに受け入れた利用者、介護や湿布を貼る処置などの看護行為をしていた際、直接接触したことにより発疹と強いかゆみの症状が出た為、病院を受診したところ、疥癬感染が確認されたものである。	58	10~ 29
12	15~16	事業所の入居者用居室内において、被災者は入居者を後ろから抱えて、ポータブルトイレに座らせようとした。作業中、入居者が急に後ろに倒れてきたので、入居者を支えながら尻餅をつくように転倒し、腰と両肘を強く打ち負傷したものである。	55	10~ 29
12	18~19	夕食の時間になったので、部屋で横になっている利用者の上体をかかえて起こし、車椅子に移乗したところ、腰が痛くなった。	32	50~ 99
12	15~16	保育園ホールにて、お昼寝時間が終了し、子どもたちを起こすために靴をぬいでゴザの上を歩こうとしていた。フローリング部分に立ち、ゴザのふちをまたごうとした時に滑り、バランスを崩してそのまま転倒した。以前にケガをした部位であり、まだ動きが十分でなかった右足首に痛みが走り、その後は足をひきずるように歩いた。	36	30~ 49
12	11~12	朝食の服薬介助時にソファに座っている入居者に対し、しゃがんで水を渡そう	54	30~

		としたところ拳で頭を5、6発殴られ、靴をはいた足で左足を5、6発蹴られた。		49
12	18~19	施設内の2階フロアで、夕食後の服薬時の声掛け中、耳が聞こえにくい利用者の為、左耳に近寄り薬の事を声掛けした際、いきなり利用者の左側の頭が自分の目、鼻を直撃した。頭突きされたようになり、直後に左側の鼻から出血した。左目はコンタクトを装着していた為、充血、腫れ、涙が止まらなかった。	52	10~ 29
12	18~19	入居者の居室にて、入居者をリビングへ連れて行くために、ベッドから車椅子へ移乗しようとしたところ、利用者が突然のけぞったため、腰に負荷がかかり、激痛を感じた。直後は腰の痛みのため動けなくなってしまった。	53	50~ 99
12	10~11	入浴介助の際、利用者の衣服を脱がそうと脇の下を前からかかえて立たせたが、利用者の足が崩れ倒れそうになったので持ち上げて支えた。その時に腰に痛みが走った。他の職員が利用者のおしりを後から足で支え、なんとか介助した。	53	100 ~ 299
12	14~15	入浴脱衣所にて、入浴後に衣類を着せようとしたとき、利用者より顔面を殴られた。	38	50~ 99
12	17~18	利用者を車椅子からベッドに移乗し、枕の位置まで移動させた際に左ふくらはぎに激痛が生じた。	51	10~ 29
12	9~10	利用者宅に迎えに行き、出掛ける用意を済ませ、玄関までの廊下で利用者を後ろから支えていた被災者は、ドシンと尻もちをつき座り込んでしまった。利用者の左足が玄関マットで横滑りし、頭の方から倒れそうになったので、被災者が利用者の腰の辺りを持ったと同時に、体重が被災者の方にかかり、抱えた反動でそうなったものである。30分程動けなかったが、車で施設まで送り業務を終えたのち、痛みが出てきた。	65	30~ 49
12	13~14	デイサービス（定員18人程度）で、毎日高齢者の移乗等を繰り返し、腰に負担がかかったため発病したと思われる。	54	30~ 49
12	15~16	居室ベッドに寝ている利用者に移乗する際、利用者がベッドの下の方に寝ていたため、ベッドの上の方へ移乗させようと足を踏ん張ったとき、左足脛に激痛がはしった。	42	50~ 99
		浴室にて立位困難である利用者の入浴後、入浴介助車椅子より本人使用の車椅子		10~

12	10~11	への移乗時、転倒防止のため支えて介助中に、腰を捻り負傷した。翌日より疼痛がひどくなり、歩行困難な状態となった。	46	29
12	13~14	当社営業所デイサービス施設フロアにて、使用した折りたたみ式簡易ベッドを片づけるときに、前傾姿勢になり足元をよく見ず、誤ってベッドの鉄のフレームで左くるぶし辺りをぶつけて負傷した。	54	10~ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html